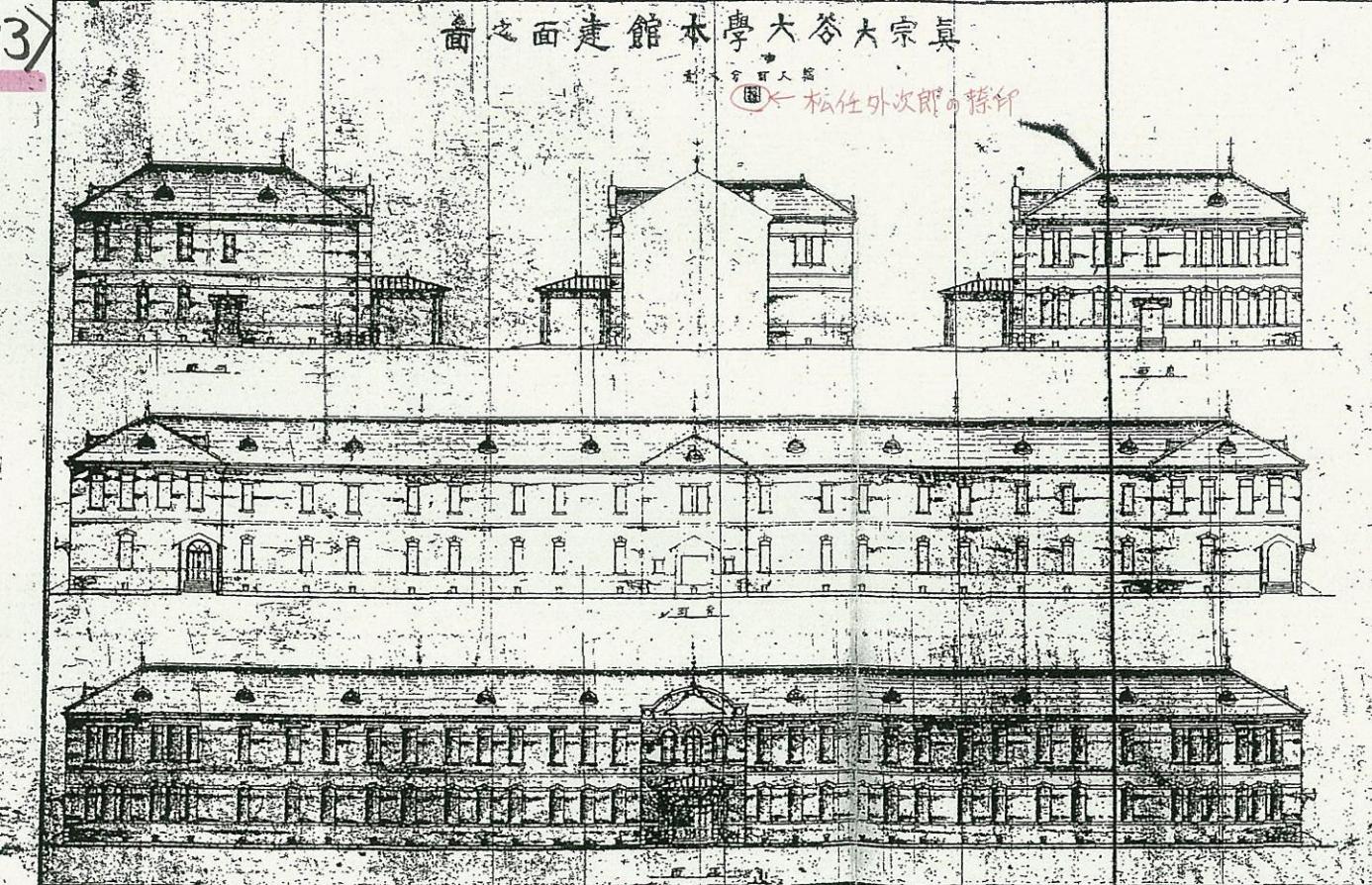


<資料12>



M. 85.6.18 日出新月方9时3分
90005584

〈資料13〉



真宗大谷大學新葉校舍

真宗大谷大學新築校舍
位 置 京都 市 上京區 鞍馬口通室町頭
坪 數 一 萬 八 百坪

本年一月より設計を始め、四十六年八月中旬竣工。本館は全部煉瓦造、其他講堂、圖書館、閱覽室、寄宿舎、炊事場、食堂、病室、廊下等総建坪數六千餘坪。

建
設

本年一月より設立

計在初秋

四十六年八月申記

三

本編は

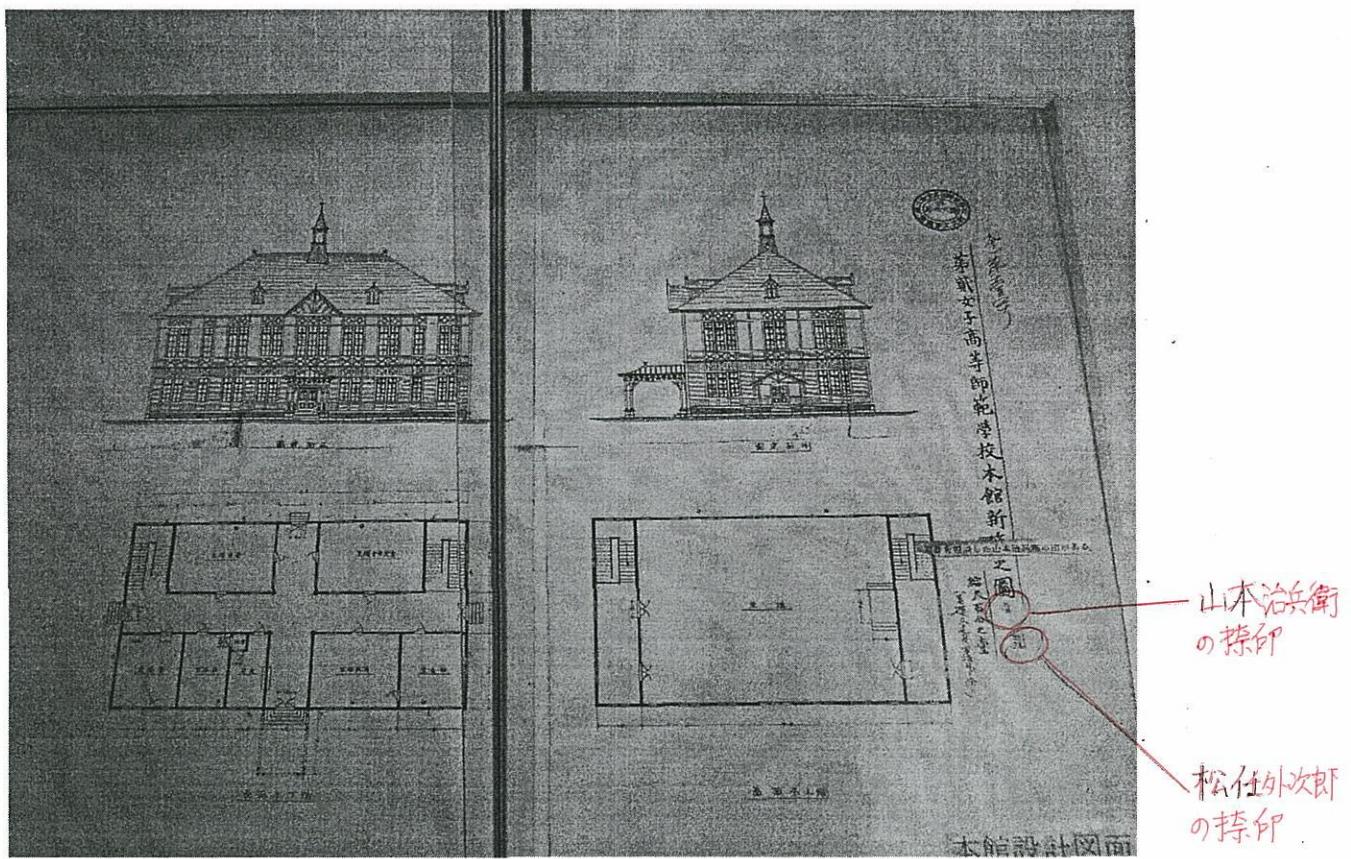
公債株券現物	大配(六配)
精五鷹公債百円	八二〇
同四分公債百円	八二〇
一厘公債百円	八二〇
半戦五分公債百円	九三五
大坂萬利公債百円	九三五
大坂公債百円	一〇三
市公債百円	一〇三
太政高橋債百円	一二五
太助商債百円	一二五
同社債百円	一二五
貯蓄いろは債百円	一二七
全ぼにあ銀五円	四七

其理學

七

京都取引

<資料14>



↑右端において、山本治兵衛の捺印と松任外次郎の捺印がある。

<資料15>

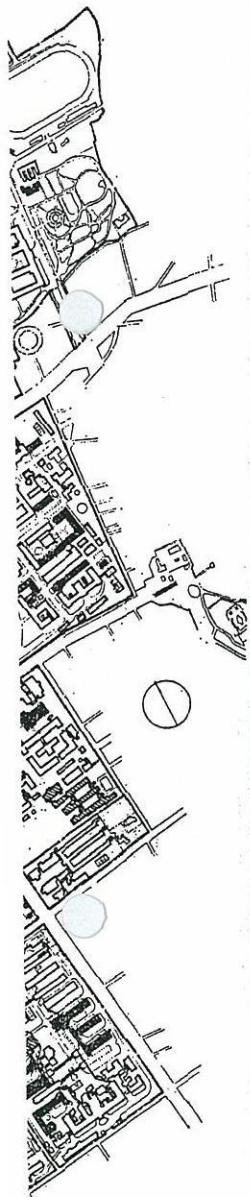


↑奈良女子大学記念館（旧奈良女子高等師範学校本館）

〈資料16〉

まれていたようだ。

と統合、旧東方文化学
部織物などの敷地を加
え、502平米を有する。
増加は少ないが、容積
(1), キャンパスの全面
的成長を示している。



3-(2) 営繕組織と建築家

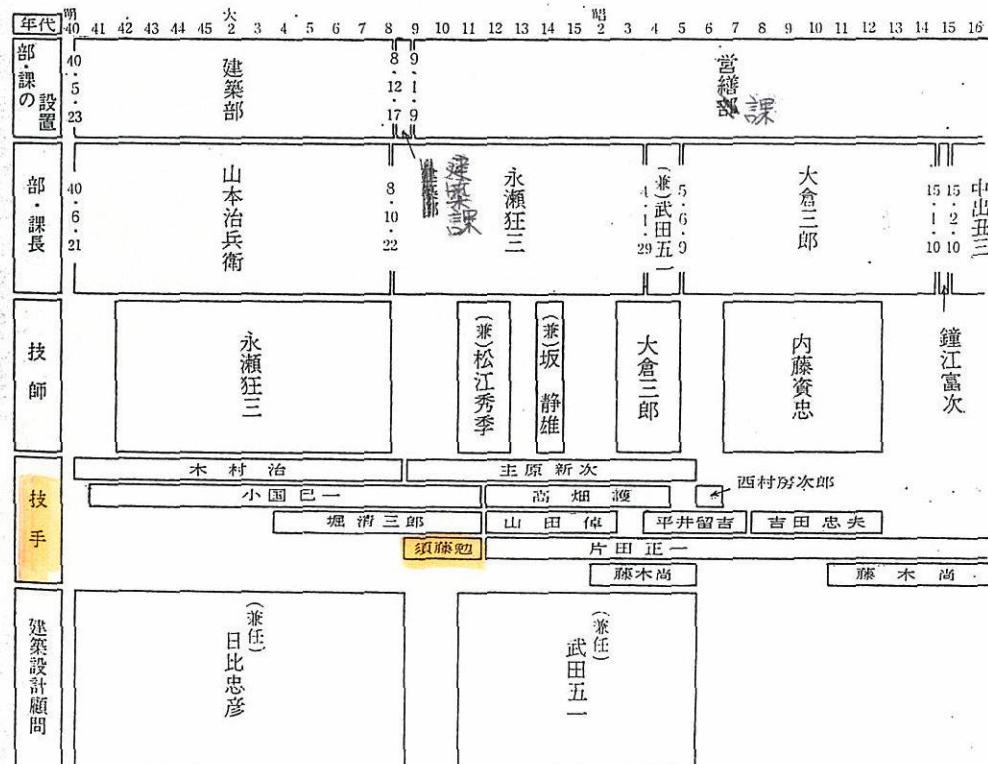
営繕組織の変遷 京都大学が独自の営繕組織を持つようになるのは明治40年になってからのことであり、それ以前の建設工事は文部省の直轄によって行なわれていた。文部省時代は会計課建築掛の技師によって担当されており、京都大学のキャンパス形成に直接関与したのは後に述べる4人であると考えられる。

明治40年5月23日に京都大学に建築部が設置され、自立したキャンパス形成に取りかかることになる。以後、建築部は、大正8年12月17日に建築

課、翌9年1月9日に営繕課、昭和35年12月15日に施設部と機構が改組されて今日に至っている。

建築部の設置より太平洋戦争開戦時までの京都大学の営繕組織の変遷を示したのが下の図である。

キャンパスを形成したひとびと ここでは、第三高等中学校移転時より太平洋戦争に至るまでの50余年間に京都大学構内の建築活動にたずさわってきた建築家のなかで、おもだつひとびとを紹介してゆきたい。



△5期の建設(現存するもの)
△5期の建設(取壊されたもの)
△4期以前の建設
△京大キャンパス

<資料17>

